

「自然・歴史・地域を守る砂留」

2020年(令和2年)2月1日 堂々川ホタル同好会情報紙2019年度11号(創刊より 181号)

2020年ようやく活動を始めます。

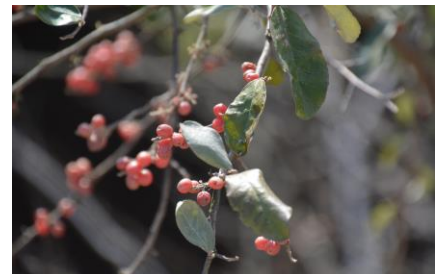
1. 2月の活動日は2月16日です。会では例月特別の事が慣れれば第3日曜日が定例会です。
2. 最近、生物多様性という言葉がよく使われますが、絶滅危惧種や貴重な生き物も住む川を守ります。これは地域の安心安全に繋がります。不法投棄を防止し彼岸花で広島県一の里にする。洪水・天井川に対応する砂の流れ防止と砂留整備とは同一次元では難しいが、頑張っています
3. 同好会の高校生、大学生も頑張ってくれています！彼らは2つの砂留を発見しました
4. 今回の裏面は、カスミサンショウウオが形態や産卵生態、DNA分析などによって9種に分類された新しい名前(ヤマト、カイン、イミ、ヤマガチ、セトギ、ヒバ、アキ、アブ、カスミ)の内のセトウチサンショウウオの記事です。福山大学の学生さんの寄稿です
5. 3月には岩手県盛岡市で日本水環境学会の「水環境文化賞」表彰式があり参加します(内定)
6. フォトで見る活動



猪に掘り上げられた球根



堂々川鳶が迫谷の猪 約30kg



堂々川筋で熟れるアキグミ



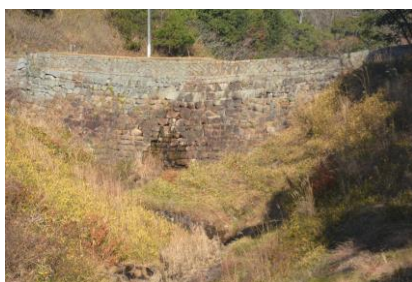
堂々川最大の水車小屋跡



新発見 御領瀬名田砂留



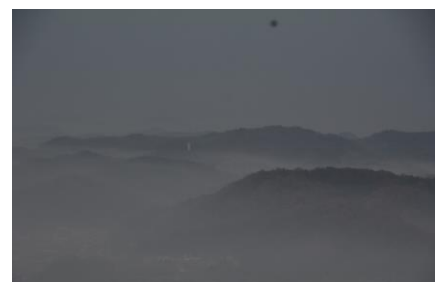
生物多様性の現場



9日5番砂留下の草刈り



来季の課題 4番川原で再度
ビトプ造りを進めたい



堂々川東の山頂で見る雲海

8..次回の定例会行事

○日時：令和2年2月の定例会は日時の設定はしません。4番、5番砂留川原の草刈りをします。時間が取れる人はご協力ください。 堂々川ホタル同好会 発行責任者 土肥 携帯 090-2865-3486

絶滅危惧種が生きている、神辺・堂々公園!!

堂々川周辺には、セトウチサンショウウオという生き物が暮らしています。サンショウウオと言っても、あの大きなオオサンショウウオではなく、成体(大人)でも全長10cmほどの小さな生き物です。

普段は山の中で暮らしているので私たちが目にすることは少ないのですが、早春になると産卵のため湿地に集まってきた成体(親)を観察することができます。



山から湿地へ降りてきた親

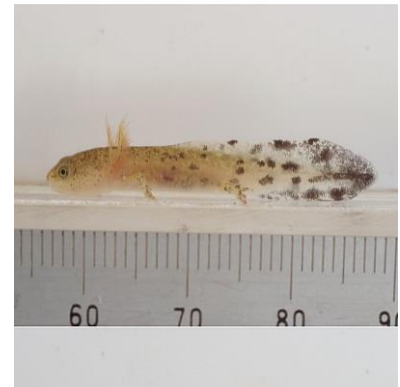
セトウチサンショウウオの卵は、卵嚢(らんのう)と呼ばれます。

卵嚢はバナナのような形をしたゼリー状の袋で、この袋のなかにたくさんの卵が入っています。



← 成体(親)と卵嚢

幼生 →



卵を産んだ親はまた山へ帰って行きますが、5月頃になると湿地では卵から孵ったたくさんの幼生(赤ちゃん)を見ることができます。幼生はウーパールーパーのような見た目をしていて、水の中の昆虫などを食べながら成長します。

7月頃になると、幼生は今までの鰓(エラ)呼吸から、肺と皮膚での呼吸へと変わり、生活の場を水中から水上(陸)へと移します。このように、一生のうち、水中と陸の両方で生活することから「両生類」と呼ばれています。

このセトウチサンショウウオは、近年では土地の開発などによって生息地が減っており、広島県では絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)に指定されています。堂々公園に、絶滅の危機に瀕している生き物が棲んでいることを、多くの方に知っていただくことが保全への第一歩だと考えています。

福山大学生命工学部海洋生物科学科水族生態遺伝学研究室
阪本憲司・釜坂 綾・河野雅也・副島春奈